



くらしかた・すまいかた

Vol.30

有松再生プロジェクト

絞り職人のまちに暮らす

愛知県名古屋市有松地区。

江戸と京都を結んだ旧東海道の宿場町に挟まれた茶屋集落は、絞り染めの産地として栄えました。

江戸時代の面影を残した伝統的なまちなみの中に馴染みながら、光と風など自然の恵みを活かした住まい「有松再生プロジェクト」。

絞り職人の自宅兼アトリエの暮らし方・住まい方について、お話を伺いました。

取材・編集：懶地球工作所 Earth Planning & Work.inc
取材協力・図版提供：加藤さん（夫）、大須賀彩さん（妻）、豊田保之さん（トヨタヤスシ建築設計事務所）

絞り職人のまち「有松」

愛知県名古屋市有松地区の東海道沿道では、今も卯建（うだつ）を設けた和瓦の屋根、塗籠造（ぬりごめづくり）、虫籠窓（むしこまど）といった特徴を持つ伝統的建築物がまちなみを形成しています。絞商の豪壮な屋敷構えと絞りに関わるの人々の住む町家が混在して建ち並ぶ特色あるまちなみが評価され、国が選定する「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれました。また、2019年5月に、「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松～」として、文化庁より『日本遺産』に認定されました。

編集部：まずはじめに、お二人が有松に家を建てることになった経緯を教えてください。

大須賀さん：私は20歳の頃から絞り職人さんに弟子入りをしてきて、今15年目の職人です。

有松は絞りの産地で、そこに自分のアトリエを持つというのが私のひとつの夢でもあったので、「ここに住めたらいいなあ」とずっと思っていました。

当時は別の町に住んでいたのですが、住居はそのまま、アトリエだけ有松で場所を借りてやるという選択肢もあったんですが、傍で私の活動を見ていた旦那さんが私の活動をととても理解してくれていて。彼が「どうせなら、有松に自宅兼アトリエを建てよう。」と言ってくれたことで、有松で土地を探すところからスタートしました。

加藤さん：有松は絞りの産地と山車が有名なまちで、隣の鳴海地区よりもまちなみがきれいに残っていて、旧東海道に面した古いまちなみは日本遺産にも指定されています。

大須賀さん：夫は歴史や伝統工芸などが好きなので、有松のまちなみも私たち夫婦にとって大きな魅力でした。

土地探しは人脈が命

大須賀さん：有松は、空き家が多くても土地が売買されることがなかなか無く、自分たちで歩いてまわって探さないといけなかったんですよ。またそういう機会が貴重な分、希望したからと言って必ず購入できるとも限りません。私たちが別の土地を購入する機会があったのですが、その時は契約まで至りませんでした。この土地は、自分の勤めている工房の社長さんから教えていただいて、ようやく知ることができて、購入に至ることができました。

新築への高いハードル

編集部：土地を購入された後に、設計者を探されたのでしょうか。加藤さん：初めは地元のハウスメーカーにも聞いてみたりしたんです。建築的な知識が全くないので、近所の住宅展示場なども見に行ったりしました。

大須賀さん：そこで担当者に「場所はどこですか？」と聞かれて、「有松です。」と答えると、「無理です。」って答えが返ってくるが続いて。

編集部：断られた理由は、歴史的建造物が多いまちならではの規制が多いということもあったのでしょうか。

加藤さん：そうですね。有松は日本遺産に認定されたほど、歴史的なまちなみが残る場所です。新築での建て替えにあたっては、色々な制約があり、請けてくれる業者さんもいなかったんです。そこで自分たちで設計者を探したところ、豊田さんが設計した家を見つけました。

大須賀さん：豊田さんは空気の流れとか根拠となるデータをしっかり取られていて、土壁や木材など天然素材を使っていることに



3



4



5

加え、今まで建てられた家がとても素晴らしくて。庭や間取りも含めて私たちの理想とするような家を設計されていて、わが家の設計もぜひお願いしたいと思いました。それまでの経緯もあり、豊田さんに断られても仕方ないけど、どうしても設計をお願いしたくて、事務所へお伺いしたんです。

そうしたら、豊田さんの事務所に私たちの購入した土地にあった家の模型があって、すごく驚きました。

豊田さん：実は以前、加藤さんたちが購入された土地に建っていた家のリフォームの依頼を請けていた事がありまして。実現には至らなかったのですが、同じ土地を購入された方が全く別のルートで私に設計を依頼されてきたことに、まず驚きました。

編集部：ものすごい確率のご縁ですね。

豊田さん：リフォーム計画の際に名古屋市の担当者の方とも交流がありましたので、設計依頼をお引き受けしようと思いました。

編集部：設計はどのように進められたのでしょうか。

豊田さん：有松では、元からあった古い家を解体して、新築を建てようとする場合、名古屋市へお伺いをたてる必要があります。これは許可申請とは少し異なり、まず名古屋市で伝建審議会というのが開催されて、そこで委員の方と話をし、取り壊してもいいとなったら、次は有松町並み相談会で新しく建てる建物の仕様、まちなみに合ったデザインにするための相談を行います。この家の場合は、私に設計を依頼される前から、ご本人が名古屋市の方へ新築を進めたいと自身の要望を伝えてくれていたので、そこはスムーズに進みましたね。

大須賀さん：そうですね。でも土地購入から家の完成までに3年半かかりました。その間に私も妊娠、出産、子育てをして、その上コロナ禍が起これ、世の中も、私たちの生活も一気に変わったんですよ。だから昨年の4月に引っ越してきた時は「やっと。」という感じでした。

有松再生プロジェクトで目指したこと

編集部：この家は有松の歴史的景観に馴染んでいて、一見して新築とは分かりませんね。どのような点に配慮して設計されたのでしょうか。

豊田さん：両隣の家は立派な伝統建築です。その間に建つ家であることを意識しました。具体的には、従前の建物の規模を踏襲しつつ、コの字型平面とすることにより屋根を分節し、周囲の建物の高さを超えないように配慮しました。

切妻平入、棧瓦葺き、瓦のカマボコ、下見板張り、ケラバ木現などの伝統的意匠を守りつつ、耐震性と断熱性を高めました。

大須賀さん：以前、住んでいたマンションは日中の照り返しが暑くて。特に夏は部屋の中が常に暑い状態が続いている家でした。新しい家は、日が当たったり、風が吹いたり、木の香りがしたり、「呼吸している家」という感じがとてもいいですね。

子どもが走りまわるようになってきたので、子どもにとってもいいなあと。それから、敷地が奥まわって静かな環境ですし、庭に小鳥が来たりするんですよ。昨日はウグイスが来ていました。

豊田さん：私が有松のまちなみに合わせた住まいを建てることで、有松のまちなみを再生させるんだ！バイオリンのように、形は昔のままで、音色（外皮性能や構造、家のプラン）で皆を感動させるんだ！という気持ちで設計を行いました。この家に「有松再生プロジェクト」と付けたのですが、「有松再生」という言葉は、建築・まちなみから、有松絞り・絞り職人へのつながりを示しています。住居兼アトリエが完成した後は、絞り染め職人の奥様にバトンタッチです。有松絞りの作品を多くの方に見て触って頂き、伝統的な有松絞りがもっと世の中に知れ渡るように、また、有松絞りと有松のまちが昔のように盛んになってくれるようお願いを込めて、「再生」という言葉でつなげています。



6



7



8



9

1. 旧東海道に面した有松再生プロジェクトのファサード。2020年に竣工した建物でありながら、有松地区の歴史的なまちなみに見事に溶け込んでいる。2. ダイニングから奥の庭を望む。3. 2階への階段を格子壁で緩やかに仕切ることで、リビングの空間をより広々と感じさせている。4. アトリエは道に面した北側に設け、住居は南側に配置。隣家との間に設けた小道から中庭を回遊し、南側の住居に入る。リビングや子ども部屋から中庭越しにアトリエの様子が見える。「アトリエにいる私を見つくと、娘が手を振ってきます（大須賀さん）。」5. 集熱を確保するLDKの開口は、全面開口とし、メーカー製の木製建具を使用。正面の壁は土壁。6. アトリエの2階部分。7. アトリエの吹き抜け。道路側にはキャットウォークが設けてあり、秋祭りの山車を見る特等席になる。8. 南側、奥の庭に面した1階のリビングは明るく快適な場所。「よく娘と一緒に縁側で日向ぼっこをしているんですよ（大須賀さん）。」9. 洗面室の奥に洗濯室とサンルームを望む。サンルームは断熱・防湿区画を行い、トップライトを設けてパッシブゾーンとした。10. 奥の庭に面した和室。障子越しに柔らかな光を取り込む。



絞り染めの産地に、染め体験のできる場を

大須賀さん：新居に超えてきてから数か月後に、アトリエをオープンしました。絞り染めの産地に来たお客さんに、絞りを体験して触れていただいたり、好きなものを染めていただいたり、自分のアトリエをそういう場所にしていきたいという夢を持っていたので、皆さんに体験していただいています。

絞りの工程は8つの工程を分業で行います。8人の職人さんで1つの作品を作るのです。括りの職人さんは一人一芸、その人だけが持つ技法のため、職人の高齢化と共に技法も失われつつあるんですね。100種類位あった技法も、今は70位に減ってきていると言われています。

私はまだ30代なので、一芸とは限定せずに、5~6種類位の技法を使って、日常使いしやすい商品を提案しています。また他の伝統工芸との連携を取って、伝統工芸に関する情報発信や教育の現

場で学生さんに絞りの体験をしてもらうような活動にも力を入れています。オンラインでも商品を購入していただけますが、やはり実際に技法を見てもらいたいという気持ちもありますし、実際の商品も手に取って見ていただける場としてアトリエができたので、今の状態は作家活動を行う上でもベストですね。

絞り染めは手作業なので、やはり高価なものなんですけど、ちょっと触れてみると、なぜこの値段なのかとか、どれだけ難しいことなのか理解していただけますし、実際に触れていただくのが、一番いいと感じていますね。私が絞り染めに会ったのも学生時代でして、産地に行って実際に体験してみたことが、職人を目指そうと思ったきっかけでもあったので、若い人が増えていったら失われていく技法や、元気のない産地がもっと盛り上がっていくんじゃないかなと考えています。

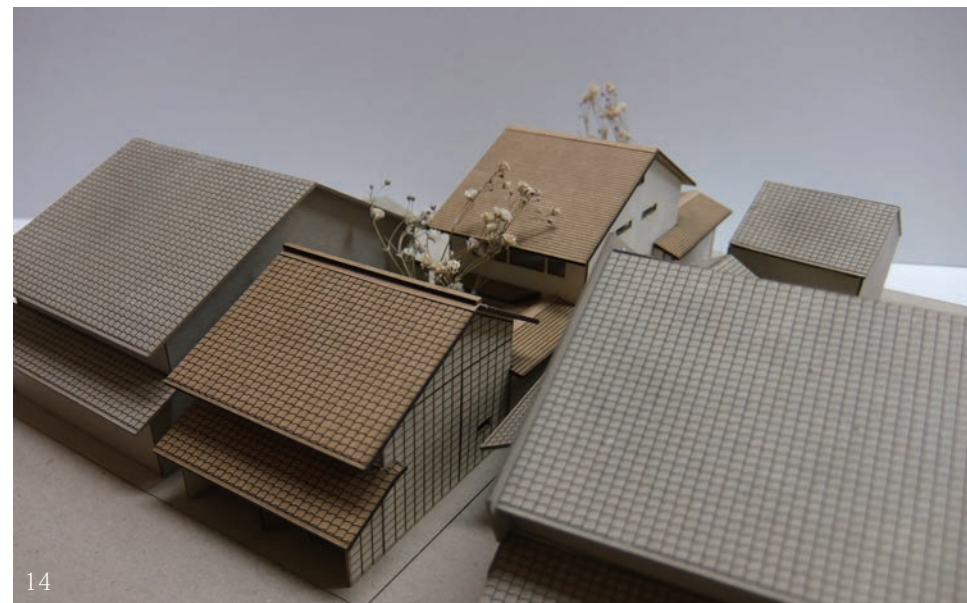
編集部：本日は貴重なお話をありがとうございました。(終)



大須賀彩さん（写真右）の作品については、「彩-Aya Irodori (<http://www.ayaosuka.com/>)」から御覧いただけます。



11. アトリエの入口には、大須賀さんの作品がディスプレイされ、絞染めの産地に彩りを添えている。12. 元々建っていた建物。13. 有松天満社の秋祭りは毎年10月に行われる。東町、中町、西町から、それぞれ山車が出されている他、天狗などの被りものを付けて練り歩く。



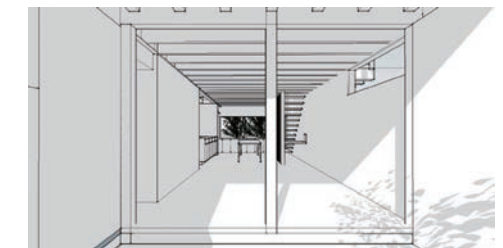
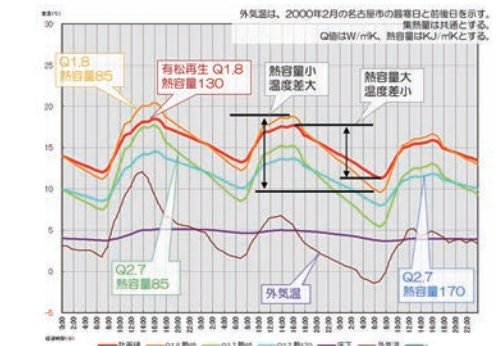
14. 隣家も含めた全体模型。「隣家は、ご覧の通り立派な伝統建築です。その間に建てるということもあり、従前の建物の規模を踏襲しつつ、コの字型平面とすることにより屋根を分節し、周囲の建物の高さを超えないように配慮しました。(豊田さん)」15. 有松再生プロジェクト/ファサードの模型。



有松再生プロジェクト more information

名古屋からの便り

<http://chiiki.kkj.or.jp/>
kkj WEB サイトの人気コンテンツ「地域からの便り」にて、豊田保之さんが「有松再生プロジェクト」を紹介してくれました。温暖環境シミュレーションの様子など、本インタビューでは紹介しきれなかった建築的な工夫が詳しく書かれています。



まちや+こあ

<https://www.enemanehouse.jp/index.html>
「まちや+こあ」は、京町家の意匠をそのままに、ZEHを達成させるという「エネマネハウス2017(学生が考える実現可能な一次エネルギー消費量0の家)」における京都大学チームの試みで、最優秀賞を受賞しました。豊田さんもチームの一員として参加されました。「歴史的な外観と一次エネルギー消費量削減0の性能を合わせ持つ家の、良い参考例になると思います。(豊田さん)」



出典：エネマネハウス2017
<https://www.enemanehouse.jp/college/kyoto/>